

校長室だより

第十号

平成二十一年三月二十五日

光陰矢のごとしと申しますが、まさしくその通り今日が修了式、今年度も終わりとなりました。

気まぐれですからと言いつつながら出し始めたこの校長室だより、まさしくその通り、七月の第九号を最後に今日を迎えました。伝えたい思いは山ほどあったものの、気持ちの余裕もなく、あわただしく過ぎ、出せませんでした。四月からは気まぐれでなく、毎月一回、定期的に出すことを約束して今年度最終号とします。さて、今回も大好きな詩人「吉野 弘」さんの詩の紹介です。

過

吉野 弘

日々を過あやます

日々を過あやまつ

二つは 一つことか

生きることは

そのまま過ちであるかもしれない日々

「いかがお過あやまごしですが」と

はがきの初めに書いて

落ち着かない気分になる

「あなたはどんな過ちをしていますか」と

問い合わせでもするようで

「北入曾」より

吉野 弘さんによると「言葉を一義的にだけ使い、そこで安心していた人が、その言葉の多義性に気づくと、ちよつと落ち着かない気分になる。『日々を過あやます』ということが、過ちの積み重ねではあるまいか」と、その揺れが人生を考えるきっかけとなる」と。「何事も分かったふりをしないことが」教育の秘訣であるとも……。また、ある学校の校長室掲示より

過ちで、改めざるをもって、過ちとなる

失敗をくりかえして人生は深まるのでしょうか？

最高の卒業式！

三月十九日に行いました卒業式。四十三名の卒業生の真剣でかつ、涙を流して自分の気持ちを素直に表現する姿が最高の卒業式でした。石内小学校に来て毎年、今年が最高の卒業式だと感じていましたが、今年もまた、これまでにない最高の卒業式でした。

四百名近い児童数になると、スペースの問題や、低学年への指導の困難さ、厳粛な雰囲気が出せないなどの理由で一年生からの全員参加は避けることが多いのですが、一・二年生の態度も極めて立派でした。六年生との呼びかけでは感極まって号泣する一・二年生も多く、これまでの縦割りでのつながりの豊かさを改めて感じました。

また、三年生は参加の態度の立派さとともに、歌声の素晴らしさ、のびのある、晴れやかな歌声を体育館に響き渡らせました。さすが三年パワーです。

そして、四・五年生、壇上から見ても微動だにしない厳粛な姿、立派を越えて圧巻でした。呼びかけを担当した子どもたちも張りのある声で式を盛り上げました。卒業を祝う気持ちも伝わりました。

そして、そして主役の六年生、初めての全体練習の日、三月九日から緊張感を持って臨んでおり、素晴らしい卒業式になることは確信していましたが、さすが、さすが、期待を越える堂々とした姿は、卒業生の保護者だけでなく、全ての保護者に見ていたできたかった姿でした。証書を渡すときの一人一人の笑顔と感動の涙、いやいや言葉では言い尽くせません。お世話になった人々への感謝の気持ちと、中学校生活への期待と希望が伝わってきました。

せんえつですが、卒業式式辞の一部を裏に印刷しました。来年度は使えないなど後悔しながらの印刷です。多くの保護者と喜びを共有できたと思います。

新校舎完成です！

ご心配をかけておりました。新校舎が卒業式に間に合うように完成しました。卒業した児童と保護者、来賓の方には新校舎を披露しました。木目のフローリングやスライド式の黒板、石内の街を見渡せる屋上のプール、エレベーター等々、温かくて素敵な校舎です。四月九日十時三十分より「**新校舎完成を祝う会**」を行います。来校いただければご案内します。お越し下さい。

また、六月末より夏休みをはさんで九月末まで、既存校舎の**耐震・改造工事**が入ります。今しばらくの辛抱です。グラウンドは多少手狭ですが、市内でも屈指の安全で快適な学校になります。

そして、来年度中には全ての普通教室に**エアコン**(冬期も使用予定)が設置されます。来年度末を考えると、わくわくします。引き続き児童の安全には十分配慮した教育を進めますのでご協力下さい。

大引越した！！！！

ということ、年度内に大引越しを行うことができることとなりました。そこで、**お願いです**。三月三十日の離任式の後、四年生以上の児童(卒業生も参加可)と教職員、そしてそして、協力いただける**保護者の方**とで大移動です。離任式には軽装でお越しください、その後十二時まで**お手伝いをお願いします**。子どもため**学校のため**、**一つ保護者パワーを！**よろしく、よろしく！ そうすればプレハブ撤去がはやくできます。